

【レビ記 1 章】

「そして祭司であるアロンの子らは、その血を祭壇の回りに注ぎかけなさい。」 11 節

白馬スネルゴイキャンプが行われました。参加された方は素晴らしい証をお土産に帰って来られたと信じます。昨年の 5 月 20 日に「リバイバルは始まった」と語られ、神様の働きは前進しています。それだけに妨害も迫害も多くなるでしょう。なおなお神様のみ前に罪を悔い改め、きよいリバイバルの器としての整えが必要とされてきます。(3 節 10 節で、「全焼のいけにえは傷のない雄でなければならない。」とされています。)

レビ人はヤコブの第 3 子レビの子孫でイスラエルの祭司部族でした。新約時代にクリスチャンは**祭司**(神と民の間を仲介する務め、幕屋の維持、管理といった責任)としての役割を果たしてゆくように導かれています。神の愛、イエス・キリストの救い、聖霊の働きなどを民に知らせ、教会で、霊的な権威を与えられている牧師或いはそれに相当する指導者のもとで弟子としての学びと訓練を受け、全世界に福音を伝えに出て行きましょう！

罪ある人間がきよい神様を礼拝するためには**“いけにえ”**が必要でした。新約時代には主イエス・キリストが十字架上でご自身を**いけにえ**として差し出されたのです。今日から始まる**レビ記**ではこの意味を深く知るためにもいけにえ、祭司、聖所、贖罪などについて学びます。

神様はイスラエルの民をエジプトの苦役から解放し、契約を結んで「神の民」とされました。それはイスラエルが周囲の異教の民の中で真の神を礼拝し、神に仕え神を知らない人々に生ける神を証する為です。今の時代も同じです。エジプトからの解放は、罪から解放され、イエス・キリストによって救われたクリスチャンを意味しています。異教の民の中で真の神を証することは、この偶像を拝む日本において、様々な災害やあらゆるチャンスを用いて真実な神様、生ける神様を証しし、インターネットの働きは大きく用いられ、賛美隊はなおなお霊の壁を打ち破る働きを行っています。賜物がひらかれ、オーケストラが結成され、夏は賛美大会、冬は映像祭を通して、ますます賜物が生かされ用いられています。また、これから確実に患難時代、迫害時代がやってきましたが**“せかいのおわり”**(パウロ秋元著)も出版され、私たちが知るべき神の御計画との中で私たちが成すべきことも知らされています。備えて行かなければなりません。今回の白馬キャンプ映像祭でも、26 聖人の殉教の「少年ルドビコと 26 の十字架」が 1 位に輝きました。



Siloam

2016 年 2 月 21 日 No.881

(シロアム: 遣わされた者 ヨハネ 9:7)

新年度の御言葉

ルカの福音書 3:2~4

「神のことばが、荒野でザカリヤの子ヨハネに下った。」 2 節

「主の道を用意し、主の通られる道をまっすぐにせよ。」 4 節



白馬スネルゴイキャンプ映像祭で第 1 位に輝いた作品

主の十字架クリスチャンセンター The Lord's Cross Christian Center

<http://tlccfrh.astone-blog.jp/>